

ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会 東京事業部会について

ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会東京事業部会（主査：永田勝也早稲田大学理工学部教授）は専門の知識と経験を有する学識経験者で構成される委員会で、東京PCB廃棄物処理施設で用いる処理方式や環境・安全対策等について地域の状況を踏まえた検討を行っていただいています。

JESCOでは、4月25日に同部会を開催し、以下の議事についてご検討いただきました。

東京PCB廃棄物処理施設における廃水の流出事故
東京事業の操業状況

検討の概要

（１）東京PCB廃棄物処理施設における廃水の流出事故について

3月28日に微量PCBを含む廃水の一部を流出させる事故を発生させたことについて、事故に至った経緯、事故原因、事故当日の緊急措置等について説明を致しました。

委員からは次のようなご指摘がありました。

- ・ 処理液回収タンクの増加原因となったトラブルは既に原因が究明され対策がとられているが、今後のために原因と対策を整理し情報を蓄積しておくこと。
- ・ 高粘度PCB廃液等の想定外対象物への対応策（意思決定体制、手順書の整備を含む）は全事業所の共通事項として検討すること。

ご指摘に対し次のようにお答えしました。

- ・ JESCOでは、処理液回収タンクの増加原因となったトラブルは、その都度トラブル報告として処理していますのでそれらを整理することに致しました。また、想定外対象物の対応策については、本社を事務局として各事業所間の運転技術にかかる情報交換等を定期的で開催しており、その中でも検討することと致しました。

（２）東京事業の操業状況について

水熱分解処理液回収タンクレベルの低減対策について

事故の一因ともなった廃水の発生増加対策として、現在、屋外にある処理液循環ポンプを屋内に移設し、処理液回収タンク配管と接続することによって、処理液回収タンクに回収された不合格液を、この処理液循環ポンプによって反応器に送液し、反応器への送液能力を増強する設備の改善について検討いただきました。

委員からは、この設備の改善についてご了解をいただいた上で、次のようなご指摘がありました。

- ・ 今後も操業状況をみながら必要に応じて設備の改善を図ること。
- ・ 設備改善については、設備が煩雑化したようにも見えるのでその操作・手順の安全確認を図ること。

ご指摘に対し次のようにお答えしました。

- ・ J E S C Oとしては今後も安全を第一として設備の改善策を講じていくこととしており、また、操作・手順については非定常の操作ではありますが、誤操作が発生しないよう当直長立会いによる2人作業とした手順書とする予定です。

安定器の処理について

アスファルト型安定器は安定器内のコンデンサのみを処理しコンデンサ以外の部材は施設内で保管すること、ポリエステル型安定器は一括して破砕処理し破砕処理後分別した非鉄部材については加熱処理、鉄部材についてはアルカリ洗浄をすることについて検討いただきました。

鉄部材のアルカリ洗浄については、アルミ素子が混じりアルカリとの反応により水素が発生する可能性があることからその対策について説明致しました。

委員には、今般採用しようとする方法についてご了解いただいた上で、水素の発生については配管等に生じる水素溜まりについては更に十分な安全対策を講じることのご指摘をいただきました。

水素溜まりについてはセンサーによる検知、窒素パージによる対策等を行っておりますが、今後所内S A委員会等にて検討を行うことと致しました。

水熱分解設備の腐食点検について

水熱反応器からの排水から六価クロムが検出され、水熱反応器の材質の腐食が懸念されるため、定期点検時には反応器の開放を行い反応器内に人が入り局部腐食がないか等の点検を行うことについて説明しました。

委員からは、特に点検方法についてのご異論はなく、水熱反応器の材質について確認のご質問をいただきましたので、材質であるインコネル中のクロムが酸化され排水中に検出されたことの説明を致しました。